

英語授業における 教材の意義について考える

日 臺 滋 之

(玉川大学)

はじめに

教科書は、授業を構成する「主たる教材」であり、学習内容が教師には指導しやすく、学習者にはわかりやすく編集されています。しかし、冊子であることの限界があり、音声は提供できませんし、カードのようなランダム性もありません。ページ数も固定なので、量的にも限界があります。それらのデメリットを補うのが教材です。今号の特集では、教材に焦点をあて、いかにそれらの教材を有効に生かして、教科書をサポートしていくかについて、考えてみたいと思います。

ピクチャーカードを用いた効果的な授業をしよう

ある中学校の研究授業を見学した時のことです。24NC Book 3のL6, I Have a Dreamの扉の写真拡大コピーにかけて黒板一杯に貼り、ALTの先生が生徒に“What do you see in this picture?”の質問で授業が始まりました。生徒も授業参観をしている私もキング牧師の演説の舞台の中に吸い込まれ、参加しているような気分になりました。また、Book 3のFurther Reading 3, A Vulture and a Childのハゲワシと少女の写真も迫力があり、写真家 Kevin Carterの目線であの光景を見ているような気分になります。生徒が写真の持つメッセージに対してどのように感じるか意見を引き出したいところです。ピクチャーカードを生かすも殺すも教師の演出に尽きるのではないのでしょうか。教材は教科書のメッセージを引き立てる重要な脇役といってよいかもしれません。

先行研究から教材の意義を活かす使い方をしよう

フラッシュカードは、通常の授業では、本文の内

容についての口頭導入を終えたあと、音読に入る前段階で使用することが多いと思います。フラッシュカードで単語を瞬時に見せ、発音させ、発音できるようになったところで音読に入る。これはフラッシュカードの通常の使い方といえます。

フラッシュカードの表の英単語の意味が言えるようになったら、最後には、裏の日本語を見て英語で言えるように指導しましょう。NC準拠のフラッシュカードは表が英語、裏が日本語です。フラッシュカードの裏の日本語はそれなりの意味があります。

Nation (2008)では、単語カードを用いた学習方略が述べられています。単語カードの表には英語、裏は日本語で、英単語を見てすぐ意味が言えるようであれば、そのカードは単語カードの束の後ろに入れます。英単語を見てすぐ意味が言えないようであれば、カードの束の中程に入れます。カードを使った学習は30分後、その日の終わり、翌日、2日後、1週間後と繰り返します。どうしても意味が言えない単語は、新しいカードの束に移す。この単語学習の最終段階として、英単語を見て意味が言えるようになったところで、最後に日本語を見て英語を言う学習を推奨しています。これは受容語彙から表現語彙へとつなげる活動ともいえます。最後は、日本語を見せたら瞬時に英語が返ってくるようにさせたいものです。

次は、ピクチャーカードについて考えてみましょう。

通常のピクチャーカードの使い方は、教科書の本文の内容について教師が口頭導入する際に必須の教具と言えます。ピクチャーカードを用いた口頭導入で内容がつかめたら、フラッシュカードで単語の読

み方、続いて教科書の音読指導へと進みます。

また、ピクチャーカードを用いて生徒自身のことばも交えながら教科書の内容を話す活動を行うことで、学習効果を上げることができます。Nation (2001) では、語彙習得に必要なこととして、まず語彙に留意すること (noticing)、続いて活動を通して語彙を思い起こすこと (retrieval)、そして語彙を創造的に使用してみること (creative[generative] use) の3つのステップを踏むことが大切であるとしています。特に、学習した語彙を創造的に使用してみることは大切で、学習してきた語彙を使って自分のことばも交えながら、イラストや写真をキューとして相手に話す機会を持つ指導がそれに当たります。この活動ではピクチャーカードが必要不可欠な教材となります。

中1では、3人称単数現在形を学習した2学期から4人一組のグループで、各生徒が1~2枚のピクチャーカードを持ち、教科書で学習した話をALTに話すことから始めます。中1の3学期あるいは中2の1学期からは、ALTと1対1で行い、スピーキングテストに繋げていく指導が可能です。

教材をそろえることから始めませんか

教育実習生の指導で筆者が中学校を訪問し、校長室で実習生の指導担当の先生と振り返りの会をしたときのことで、筆者が「授業ではピクチャーカードを使用すればもっと効果的な授業ができるのではないですか」と切り出したところ、担当の先生が、「予算が厳しくて購入できないのです」と話されました。そのとたん、傍にいた校長先生が、「そんなにいいものなのですか。そんなにいいものだったら何とかうちの学校でも購入したい」と突然お話しされたことがありました。授業効果を上げられる便利な教材は何とか準備したいという校長先生のお気持ちが伝わってきました。購入できたかどうかはともかく、学校管理者を味方につけることは大切で、英語教員が学校管理者に味方になってもらうために知恵を絞ることは大切だと思うのです。

教材をそろえつつ、活用方法を工夫してみませんか

聞く・話す活動では、カード類とは別にCDや

DVDやデジタルテキストが必要となります。合計すると予算内で収まらず、すぐには学校管理者も味方になってくれるとは限りませんが、あきらめないことです。代用が効くものはないか教員仲間と教材について情報交換をすればよいものが見つかることもあります。例えば、デジタルテキストのフラッシュカードがなくてもWord Flashのフリーウェアで代用は効きます。板目の画用紙を細長く切ってマジックで書けばフラッシュカードの代わりになります。教材がそろってきたら、教材の特徴を活かし、合わせ技で授業の効果を上げたいものです。

自主教材も活用してみませんか

筆者は、チャットの活動の後は決まって、用紙を配り、「英語で言えなかった表現」を生徒に書いてもらい、それを集めて、自前のソフトウェアEasyConc.xlsmを作成してきました。EasyConc.xlsmの検索機能を利用し、必要な文法事項や表現を検索し、それをワークシートに取り込み、授業で実際に使用してきました。生徒のコミュニケーション活動を育成するうえで生徒が表現したいと思うときに、教師がその表現をワークシートで適切に提示することができれば語彙の習得に役立ちます。その詳細については筆者のウェブサイトに公開されていますのでご覧ください。

おわりに

さて、手元にある教材を今一度、確認してみませんか。そして、これまでの授業でその特徴を活かす使い方ができたか、振り返ってみませんか。ピクチャーカードの箱の中にあのとき使っておけばよかったと思うようなカードがあるかもしれません。デジタルテキストがあっても効果的に使い切れなかったことはありませんか。特集記事をきっかけに、あらためて教材を振り返ってみる機会としたいものです。

【参考文献】

- 東京都中学校英語教育研究会研究部. Word Flash. (<http://www.eigo.org/kenkyu/>)
 日菴滋之. 2015. EasyConc_v.4.2.xlsm. (<http://www.tamagawa.ac.jp/research/je-parallel/>)
 Nation, I.S.P. 2001. *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge University Press.
 Nation, I.S.P. 2008. *Teaching Vocabulary: Strategies and Techniques*. HEINLE.